

市民活動は
まちの未来を
創造する

パートナー

発行 静岡市清水市民活動センター
 指定管理者 特定非営利活動法人
 NPOサポート・しみず
 〒424-0943 静岡市清水区港町2-1-1
 Tel 054-340-1010 Fax054-351-5530
 mail@shimizu-s-center.org
 http://shimizu-s-center.org

市民活動団体へのニーズ把握をもとに、年度後半の事業を実施します

ひと段落したNPO法改正への対応

清水市民活動センターでは、今年度前半、NPO法改正に対応した講座を開催してきました。これまで繰り返し、定款変更、代表権喪失の登記、活動計算書への変更、認定NPO法人について、と講座を実施してきましたが、これで法改正への対応講座はひとまず終了させていただきます。まだ対応しきれしていないNPO法人の方は、個別に相談にのります。ぜひご連絡ください。

ニーズ把握アンケートから

さて、上記のような実務的対応ばかりでなく、NPO法人の運営には、様々な苦労があると思います。

清水市民活動センターは平成23年度、24年度2回にわたって、静岡市内の市民活動団体を対象にニーズ把握アンケート調査をしてきました。この結果からは、NPO法人特有のものとして「会計・税務」「事業報告書」「理事会運営」、市民活動団体全体としては、「助成金・補助金」「IT活用」「労務」などの講座開催要望がありました。

また、団体としての悩みを聞くと、「お金」「会員拡大」「次世代育成」などが出てきます。その解決のためには、団体の運営をきちんと意思決定の過程を明確にすること、ミッションや事業内容をわかりやすく広報するなどの基盤整備をして寄付を集めやすい団体にしていくこと、経営的に成り立つように事業を組み立てること、などが考えられますね。また、地域課題を解決していくために、他団体との協働も視野に入れておきたいものです。

年度後半は、以下の事業を企画しました。是非参加して、団体運営に活用してください。なお、7周年記念事業についてのご案内は、4ページに掲載しています。



森林を守る「S-GIT」と「清水おやこ劇場」の協働による企画、森林保全について学ぶ会

● 市民活動団体向け講座を開催

会場は全て、清水市民活動センターの第1会議室です。

「マスコミとのつきあい方講座」

日時 9月28日(土) 19:00~
 講師 静岡新聞清水支局長 田辺貴一さんほか
 内容 マスコミ活用のフポイントアドバイス！
 名刺交換で新しい広報のチャンス作りも。

「NPOのためのファシリテーション入門講座」

日時 10月12日(土) 13:00~
 講師 人材開発トレーナー 佐藤 聡さん
 内容 会議を円滑に進めるための舵取り、「ファシリテーション」について基礎から学びます。

学生団体活性化委員会DD企画運営による 「学生のまち金沢の作り方」

日時 11月23日(土) 13:00~
 講師 金沢学生のまち市民交流館コーディネーター
 仁志出憲生さん
 内容 講演、意見交換を通して、学生と市民が一体となりまちづくりを進めるための秘訣を学びます。

「お役立ち！助成金申請講座」

日時 12月15日(日) 13:00~
 講師 一般社団法人セブンイレブン記念財団、
 公益財団法人キリン福祉財団の担当者
 内容 財団の特徴を知って申請にチャレンジ。福祉系、
 環境系の団体はぜひ参加を！

● 交流事業のご案内

しみず・まちコレ シリーズ2「折戸なす復活物語」

日時 9月20日(金) 19:00~
 ゲストスピーカー 折戸なす栽培研究会
 堀義明さん 遠藤亘さん
 内容 明治以降栽培が途絶えていた折戸なすが蘇りました。お話を伺い、交流を楽しみます。

「平成25年度第1回利用団体連絡会議」

日時 9月27日(金) 19:00~
 内容 センター事業報告と9月以降の事業案内
 団体同士の情報交換と交流
 ※団体インフォメーションの時間を設けます。
 事前にお申し出ください。

リレートーク 港の風 - 27 -

「海から吹く風に乗せてまちに元気をひろげたい」そんな願いを込めて、市民活動を続けているみなさんをトークでつないでいきます。今回は、団体発足から四半世紀にわたり息の長い活動を続けている、しずおか環境教育研究会の理事長、大畑実さんに登場していただきました。

● エコエデュ（しずおか環境教育研究会）とは

特定非営利活動法人しずおか環境教育研究会
理事長 大畑実

私は、エコエデュの理事長というポストにいますが、この会を代表して会の全体像を的確に説明することはできません。この会の目指すところは同じでも環境教育のやり方、考え方に会員の中には多様性があります。そして、この会にはカリスマ的リーダーは存在しません。私にできることは「私の考える環境教育」、「私の考えるエコエデュという組織」を語ることです。

エコエデュは、外部からその活動を見ると子供の自然体験学習を支援する組織に見えます。しかし、我々はこのことを環境教育の一つの手段と考えそれ自体を目的としていません。私は環境のゴールを「人と人との関係、人間と自然との関係及び関係の全体を持続可能な状態に再構築」と考え、そのゴールを目指す手段として環境教育が有効と考えています。（ただ確信はしていません）そのために、私たちのやっている、環境教育は、『場』の提供だと思っています。この『場』には二つの意味があります。一つ目は、人々が自然と直接かかわっている里山という場所。二つ目は人と自然との関係を考える基礎力（関係を考える視点としての生態学・体験としての農業、遊びなど）いわば考え行動するための足場。そして最終的には、この『場』に立ち人類の次のステージに向けて歩み始める人が育つことを願っています。そのためにまず私がやるべきことは学び考えることだと思っています。・・・生態学・脳科学・複雑性の科学・社会学・言語学・・・本の山の中から『私の八角形の濃度勾配が転がっていく』詩人・みのる



エコエデュのスタッフは、教える人ではなく、伝える人です。驚きや喜び、不思議への気づきを同じ目線で伝えます。

特定非営利法人しずおか環境教育研究会
TEL 054-263-2866/FAX 054-263-2867

子どもたちの感性を豊かに育てる エコエデュのプログラム



子どもには自分で遊びを生みだし、夢中になる力があります。

地域メディアとの協働

エフエムしみず

「しみず市民活動センター情報」

8月の出演団体

76.3MHz 毎週火曜日 9時10分～10分間

清水市民活動センターはパーソナリティとゲストをコーディネートし、情報を提供する役割を果たしています。

- 8月6日 NPO法人ヤングカレッジ
9月8日におこなう落語セミナーのお知らせ
- 8月13日 グループねこととSHIZUOKA
8月18日、清水市民活動センターでおこなう猫の譲渡会のお知らせ
- 8月20日 清水おやこ劇場
子育てサロン「おやこであっがっがー」のご紹介のご案内
- 8月27日 イオン福祉イベントデー実行委員会
8月27日当日開催される「イオン福祉イベントデー周年祭」のご案内

清水市民活動センター利用状況

利用者は、5月1,404人、6月1,161人でした。

市民活動見てある記

社会がグローバル化する中で、食文化を取り巻く背景や、未来の食卓について考えよう、というワークショップが開催されました。

アース(明日)カレッジネットワーク国際教育講座 食から考える日本のコト、未来のコト。ツナガル食卓



主催 常葉大学大学院国際言語文化研究科 渋谷研究室
公益財団法人 静岡県国際交流協会
独立行政法人 国際協力機構 中部国際センター

アース(明日)カレッジネットワークでは、静岡県で国際理解教育に取り組む実践者が、情報交換やプログラム作りを行っています。教育関係者・青年海外協力隊・NPO等経験豊かなメンバーが提供する講座は、回を重ねて7年目を迎えました。会場の常葉大学大学院サテライトキャンパス(静岡市)には、10代から70代までの幅広い年齢層、農業従事者や赤ちゃんを連れた若いお母さん、学生、いろいろな立場の方が集まりました。運営スタッフからも、複数団体の主催で行うことで多様な参加者があった、と報告がありました。



覗いてみよう、世界の食卓

示されたのは、一週間分の食材を前にした様々な国の家族の写真。そこからその暮らしぶりや課題について話し合う、というのが今回のワークです。

自給自足に近い生活を送っている人たちの食卓は一見質素ですが、家族がともに働き全員で食事をするこの豊かさが見えます。一方、日本の家庭は簡単に手に入る食材や加工品があふれていますが、孤食や食品添加物、廃棄物のことなど多くの課題が汲み取れます。また、並べられた写真を比較していくと、食材が国を越えて流通し、食卓は「ツナガって」いることがわかりました。

国際協力や食に関心を持つ方たちが多面的に意見を出し合う活気あるワークショップとなり、予定の3時間は瞬く間に過ぎました。

大切なのは、身近に「食べ物」があるということ

会場に在来農作物の継承や、有機農業関係についての情報も用意され、農業生産者の参加があったことも特徴的でした。

こちらのテーブルでは、農業に携わる方たちの熱心なトークが続きました。

「生産者と消費者の距離が近いこと、消費者も関わってみんなが生産者であることが大事」、そう語るのは農園を営む石上さん(写真左)。スーパーマーケットに並ぶ野菜を消費するだけでなく、生産の過程を知り自ら関わることで農業を守っていくことにつながると言います。食料自給率40%を切る日本に住む私たちへの大切な啓示です。また、大学を卒業して農業の世界に入った青年(写真中央)は、会社が経営する農地で社員として働いているそうです。後継者不足と言われる一次産業での働き方も、変化していることを感じます。



今回の仕掛け人

3つの団体をつないだこの企画は、常葉大学教授の渋谷恵先生によるものです。豊富な経験から、身近な食を題材に問題を提起しています。終始楽しい雰囲気でしたが、その内容は現代社会が抱える重い課題を示していました。

終了後、「盛り上がりましたが、課題の掘り下げにはもっと時間が必要でした」とおっしゃっていました。ぜひ、「掘り下げ」るための企画をお願いしたいところです。



アース(明日)カレッジネットワーク
国際教育講座
についてのお問合せは、

公益財団法人静岡県国際交流協会
TEL : 054-202-3411
E-mail : info@sir.or.jp

取材 6月30日 担当 望月

7周年記念事業 実行委員会スタート -メイン事業の日程・企画が決まりました-

静岡市清水市民活動センターは、今年の10月に開設7周年を迎えます。

毎年秋には「周年記念事業」として、センターの誕生を祝うために、利用団体の方たちと一緒に、様々なイベントをおこなってきました。今回も実行委員会を立ち上げ、みなさんと企画を検討していきます。

すでに2回実行委員会が開かれ、実行委員長やメイン事業の日程が決まり、企画の大筋が決まりました。

- 実行委員長 NPO法人POPOLO 理事長 望月健次さん
- メイン事業開催日 2013年11月10日（日）
- タイトル 「7周年記念事業 市民活動FESTA2013」笑顔・つながる・未来へ
- メイン事業企画 団体活動紹介ブースとスタンプラリー、団体のうでまえをみせる「ミニ講座」、ドネーション（寄附イベント）、フードコート、パネルコンテスト表彰など

また、10月1日～11月30日までの2ヶ月間を「市民活動FESTA 2013」とし、この期間に記念事業を行います。その間市民活動団体パネル展示、パネルコンテスト、被災地支援募金、階段の壁面を使ったメッセージ企画なども予定しています。

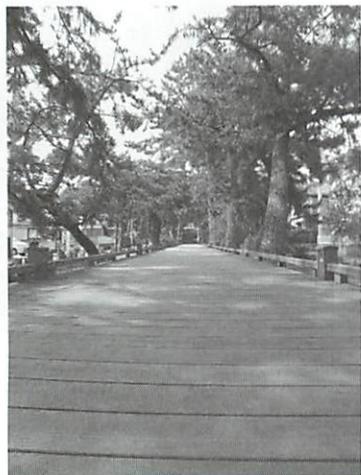
好評だった昨年の企画を踏襲しつつ、新しい要素を盛り込んだ「今年らしい」イベントをつくります！

実行委員会参加団体（順不同）

NPO法人POPOLO、STCCA(地球温暖化防止を考える会)、清水日本語交流会の会、YEC(若者エンパワメント委員会)、特定非営利活動法人ヤングカレッジ、静岡2.0、いきもの企画、NPO法人かっぱらば編集室、清水TA研究会、特定非営利活動法人青少年就労支援ネットワーク静岡、若者たちの学び塾、清水おやこ劇場、いこえる広場、新日本婦人の会、四季を歌う会、清水映画サークル協議会、特定非営利活動法人海猿火組、特定非営利活動法人NPOサポート・しみず

しみず・コレなあに？

その2



答え：三保海岸から御穂神社へ通じる「神の道」

ここは、世界遺産登録でにぎわいが増している静岡市清水区三保。海の彼方からやってくる神が、まっすぐこの道を通して御穂神社に鎮座するといひます。2009年に木道が整備され、その両側には、樹齢200年・300年という松の並木が続いています。

センター日和

スタッフがお伝えする

清水市民活動センターの きのう・きょう・あす

先日、センターで金泥書フォーラムが主催する講座が開催されました。松尾芭蕉の俳諧紀行「笈(おい)の小文(こぶみ)」についての講義とのことで、終了後参加されたみなさんは、「興味深い内容だった」「とても勉強になった」と口々に話しながら、満足そうに帰って行きました。

金泥書フォーラムは、NPO法人として金泥書の技法を研究復活させた福島久幸さん(静岡市清水区在住)の業績を広く伝え、後世に残していこうと活動を続けてきた団体です。しかし、法人のミッションは一定の到達点に至ったとして今年の3月に法人を解散しました。今後は、任意団体として金泥書以外の歴史、文化にも目を向けて活動をしていきたいと報告をいただき、その言葉通り熱心に取り組みを続けています。

NPO法施行から15年が経過し、NPO法人の解散事例もよく耳にするようになりました。解散イコール活動の消滅ではなく、任意団体となって、今までの実績を活かした事業を創っていくのもひとつの選択肢です。そのことを金泥書フォーラムのみなさんが実践で示してくれました。

望月裕子